歴史的分野研究発表

時代の特色をとらえる力の育成

～時代を大観する学習「近代の日本と世界」～

東京都練馬区立大泉中学校　彦坂　好郎
東京都北区立王子桜中学校　新坂　大輔

１．歴史専門委員会の研究経過

平成20年度	「特色を考えさせる政治の学習」、年間指導計画の検討
平成21年度	歴史について考察する力と説明する力の育成
平成22年度	政治の変革の特色を考えて時代の転換の様子をとらえる学習
平成23年度	時代の特色をとらえる力の育成　～時代を大観する学習～

２．研究のねらい

今回の学習指導要領の改訂では、基礎的・基本的な知識、概念や技能を学習するという視点から、「我が国の歴史の大きな流れ」を理解する学習を一層重視した。そのため、歴史的分野の「（1）歴史のとらえ方」には、新たに中項目ウが設けられた。「各時代の特色をとらえる学習」である。歴史的分野の学習の中心は「我が国の歴史の大きな流れ」の理解で、「各時代の特色」はそのために踏まえる内容である、という位置づけが明確化された。

この学習は、今回の歴史的分野の改訂の基本的な考え方に深くかかわるものであり、歴史的分野の目標を達成するために欠かせない学習である。学習内容の構造化の考えに立てば、古代、中世などの時代ごとの特色を明確にとらえることができてようやく、我が国の歴史全体の流れが理解されてくることになる。また、この学習は、各時代のまとめの学習として実施することを原則としているが、まとめ段階の学習だけでなく、まとめに至るまでの毎時間の学習過程が重要となってくる。従って、まとめの学習に至る様々な学習過程をふまえて時代の特色をとらえる力を育成していくことになる。

さらに、各時代の特色の究明というねらいを意識しながら、多くの歴史的事象のうち、何を取り上げてどのように理解させればよいのかという学習内容の焦点化を図る必要もある。歴史的分野では、大項目ごとに、学習した内容を活用してその時代を大観し表現させる授業を行うことで「各時代の特色をとらえる力を育成」していくことができると考え、学習活動や指導方法の工夫を研究実践してきた。

３．学習指導要領との関連

（１）　思考・判断・表現する学習

歴史的分野の改訂では、言語活動の充実にかかわる２つの面が重視されている。一つ目は、「歴史について考察する力や説明する力」を育てる学習であり、二つ目は「学習内容についての理解や認識」を一層深める学習である。「各時代の特色をとらえる学習」は、思考・判断や表現などの過程を通じて行われる、考えたり判断したりその成果を自分の言葉で表現したりする学習の一つで、これによって言語活動の充実をはかる。また、歴史的事象の意味、意義を解釈する学習や事象の特色や事象間の関連を説明するなどの言語活動にかかわる学習を通じて、多面的・多角的に考察し公正に判断したり適切に表現したりする能力と態度を育てる。

（２）　各時代の特色をとらえる学習の新設

大項目（１）「歴史のとらえ方」のウとして、各時代の特色をとらえる学習を新設している。これは、大項目（２）～（６）で学習した内容を活用して、大観し表現する活動を通して、その時代がどのような特色をもった時代だったのかをとらえる学習である。学習した内容の活用とは、学習した内容を比較したり関連付けたり、総合の過程などを伴うものとしている。歴史的分野の研究主題は、この「各時代の特色をとらえる学習」に焦点をあてたものである。「時代の特色をとらえる力」を育成することは、歴史的分野の目標の一つを達成することに他ならない。

○学習指導要領　大項目（１）歴史のとらえ方　の時間数

歴史の導入・身近な地域・大観［２２時間］

（１）	ア「我が国の歴史上の人物や出来事などについて調べたり考えたりするなどの活動」	［５時間］
	イ「身近な地域の歴史を調べる学習」	［７時間］
	ウ「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動」	［１０時間］

（３）　「各時代の特色をとらえる学習」と歴史的分野の研究

今回、歴史的分野では、この新設された「各時代の特色をとらえる学習」に焦点をあてて研究を進めてきた。この学習には、学習指導要領の改訂で考慮している様々な重要な観点が多数含まれている。歴史的分野では、各大項目の最初に行う「導入の学習」、まとめの学習に至るまでの「毎時の授業」の組み立て、そして最後のまとめである時代を「大観する学習」の一連の流れをひとくくりとして指導計画をたて、実践を試みてきた。そして、毎時間の授業において時代全体の特色を意識しながら学習の焦点化を図るようにした。

①　導入の学習

各時代の特色をとらえる学習においては、各時代の学習の初めに、その時代全体の特色をとらえることが学習のねらいであることを自覚する導入の学習を行って意識づくりをする。歴史の学習では、古代の学習が１年からはじまり、現代の学習は３年生で行うという学習期間が長期にわたるため、生徒の発達段階に応じて、その時代全体の特色をとらえる意義が実感されるよう導入教材や指導方法の工夫が必要となる。

②時代を大観する学習

その時代について学習した内容を活用してその時代がもつ特色を考察してとらえるまとめの学習である。これは、歴史を考えたり説明したりする言語活動の充実につながる学習であり、同時に思考・判断や表現などの過程を通じて、我が国の歴史に対する理解や認識、愛情を深める学習でもある。下記の表のように生徒の発達段階に応じて時代を大観する方法や配当時数を変えて指導計画をたてた。

大項目の(2)～(6)で 10 時間を大観する学習として年間指導計画をたてている。

大項目	時代を大観する学習の方法	時数
(2)古代までの日本	カードを活用した時代の大観	１時間
(3)中世の日本	キーワードやキャッチフレーズを利用した時代の大観	２時間
(4)近世の日本	ワークシートの記入と意見交換による時代の大観	２時間
(5)近代の日本と世界	ワークシートの記入と意見交換による時代の大観	２時間
(6)現代の日本と世界	リーフレットの作成を通した時代の大観	３時間

大観や表現の仕方については、学習した内容の単なる羅列的なまとめにならないよう、カードの活用しての授業やワークシート、リーフレットの作成など言葉や図などで表現したり、互いに意見交換したり討論したりする学習活動を考えた。

４．時代を大観する学習

（１）大項目「（５）近代の日本と世界」

①学習をするにあたって

「近代の日本と世界」は、本委員会で作成した年間計画では大観を含めて 45 時間（大観以前は４３時間）という長い時間を配当している。しかも、本単元は第２学年～第３学年にまたがって授業が行われるため、ほかの単元と同様に一度に大観できるのかという疑問があった。全国大会でも質疑応答で出されたように、「近代」をひとまとめにして大観するよりも、２～３回に分けて大観していったほうが良いのではないかという議論があった。本委員会でも当初は「近代国家の形成時期」「第一次世界大戦期まで」「終戦まで」の３つに分けてそれぞれで大観する学習を１時間ずつ入れる案から検討を始めた。しかし、時代の流れをつかませるという本来の学習の目的を考えると、本委員会では、やはり一度に「近代」として大観する必要があると考えた。

②単元の指導計画

大項目（５）近代の日本と世界（４５時間）

1　フランスの市民革命	14 初期の国際関係	30 第一次世界大戦前の国際情勢
2　イギリスの産業革命	15 文明開化と生活の変化	31 第一次世界大戦と日本の参戦
3　資本主義社会の成立	16 新政府による政治改革の特色を考えさせる学習（転換の学習２）	32 大戦後の国際協調の動き
4　欧米諸国のアジア進出		33 アジアの民族運動
5　中国の動き	17 新政府への不満	34 大正デモクラシー
6　日本の開国	18 自由民権運動の広まり	35 社会運動の展開
7　開国の影響	19 大日本帝国憲法の成立	36 文化の大衆化
8　江戸幕府の滅亡	20 議会政治のはじまり	37 世界恐慌とファシズム
9　新しい政治を予想させる学習（転換の学習１）	21 日清戦争	38 経済の混乱・社会問題発生
	22 日露戦争	39 政党政治の行き詰まり
10 明治新政府の成立	23 朝鮮の植民地化	40 軍部の台頭と日中戦争
11 新政府の諸改革Ⅰ（版籍奉還・藩置県･身分制度の廃止）	24 条約の改正	41 第二次世界大戦
	25 日本の産業革命	42 太平洋戦争
12 新政府の諸改革Ⅱ（学制･兵制・税制）	26 国民生活の変化	43 戦時下の生活と大戦の終結
	27 労働問題や社会問題の発生	44　大観する学習1
13 新政府の諸改革Ⅲ（殖産興業）	28 教育の広まり	45　大観する学習2
	29 近代文化の発展	

③本時の流れ

本時は２時間に分けて行う。第１時では、「国内の政治的な動き」、「外国との関係の動き」「経済や社会に関する動き」「文化や生活に関する動き」の４つの分野に分けて整理された年表形式のワークシート（後ろに添付）に生徒がこれまでの学習を振り返る作業を行う。４つのそれぞれの動きにはあらかじめ時代の流れに合わせて３つに分けられ、生徒は年表を作成したのち、それぞれにタイトルを付けていく。この作業で、４つに分類された動きの大まかな流れをつかみやすくしている。どのようなタイトルが付けられたのかを全体で確認したのち、グループごとに４つそれぞれが「近代」の中でどう変わっていったのかをまとめていく。

第２時では、前時のワークシートを利用して、横の流れをひとくくりにし、大きく３つに分け、それぞれどのような時代なのかをまとめる作業を行う。そうすることで、明治～大正～昭和初期の大きな時代の流れをつかむことができる。最後に今までにまとめたことを踏まえ、「近代とはどのような時代であったのか」を書いていく。

④指導計画

	学習活動	指導上の留意点	評価
第1時	○これまでの学習を振り返り、「国内の政治的な動き」「外国との関係」「経済や社会の動き」「文化や生活に関する動き」の４つの分野に分けたワークシートの空欄を埋めていく。	・ここであまり時間をかけすぎないようにする。	知 近代の重要事項を理解している。
	○４つの分野のそれぞれのまとまりにタイトルを付けていき、どのようなタイトルを付けたか発表する。	・大観がぶれないように、お互いの意見交換をさせながら発言を調整していく。	思 それぞれのまとまりの特色をとらえている。
	○４つの分野それぞれがどのように変遷していったのかを文章で表し、グループで話し合ってまとめていく。	・１つの分野を１～２グループが担当するようにする。	思 自分の担当する分野について近代の流れを説明できる。
第2時	○前時のワークシートで、横に三段に分かれたそれぞれの時代がどのような時代であったか、自分で考えたのちに、グループで話し合わせる。	・４つの分野に分けたものが、相互に関係していることをつかませる	知 近代を３つの大きな流れでとらえることができる。
	○それぞれのグループの発表をもとに近代とはどのような時代であったかを自分の言葉でまとめていく。	・いくつかの見方が出てくるように、生徒を指名して発表させる。	思 近代の特徴を自分の言葉で考え、まとめている。

⑤授業の実際

今回は、実践事例を３校で行ったので、A~C に分けて成果と課題を以下の通りに示した。

A～C の授業については、添付のワークシート参照。

Ａパターン：　１時間目に近代の年表づくり、２時間目にまとまりごとのタイトル作成と「近代」の特色をまとめる方法

成果：年表作成に際して、４つの分野に分けてまとめることは、複雑でたくさんある事象を整理するうえで効果的であった。また、小グループ（３～４人）での調べ学習や話し合いは大変活発に行われていた。各グループで話し合ったことが、最後に個人で近代の特色をまとめる作業に生かされ、短時間ながら自分なりの言葉で近代の特色をまとめることができていた。

課題：３時間計画で実施したほうが内容や活動がより深まったと考えた。時間が不足していたため、年表に記載する事項などを教師主導でまとめた部分があったので、もっと生徒主導で行えるとよかった。

Ｂパターン：　タイトルを付けずに４分野に分けた表を３つの時期に分けてまとめ、考察していく方法

成果：ア　３つの時期に区分したことで、生徒は時期ごとに４つの分野の関係や変化を把握することができた。４つの分野と３つの時期に分けた上でワークシートにしたことにより、生徒は近代の全体像を視覚的に把握することができた。

イ　３つの時期それぞれで４つの分野の特色を個別にまとめさせたことで、生徒は各時期の各分野の特色を細かく理解することができた。それぞれの特色を３つの時期で比較することにより、生徒は時期ごとの変化を読み取ることができた。

課題：ア　３つの時期それぞれで４つの分野の特色を個別にまとめさせたが、その次に４つの分野を総合して、それぞれの時期の特色をいったんまとめさせるべきであった。この段階を踏まえれば、生徒は各時期の特色とそれぞれの違いをより明確に把握できたと考える。

イ　ワークシートに載せる項目は、近代の特色をつかませるために必要最小限に抑える必要がある。

今回はいろいろなことを盛り込みすぎたために、かえって時代像の把握が難しくなってしまった。

Ｃパターン：　Ⅰの「各時代のタイトルを考える」ワークシートと、Ⅱの「タイトルは考えない」ワークシートと、２パターンで実施。Ⅰ・Ⅱともに各時代の特色をまとめた後、近代全体の特色を話し合い、個人的に最終意見を出す方法

成果：Ⅰでは、タイトルを考える作業をすることにより、それぞれの時代の政治など、まとまりごとにしっかりと意見交換をするため、深い意見交換が出来た。

Ⅱでは、タイトルを考える作業がないため、各時代の特色をじっくりと時間をかけて話し合いをすることが出来た。また近代の特色の第一案をグループで検討した後、全体が自由に席を移動してフリートークする活動を取り入れたが、ここでもしっかりと時間をかけて話し合い活動をすることが出来た。

課題：Ⅰでは最後には時間内に仕上げることが難しく、友達との意見交換に時間が充分に取れないクラスが出てしまった。

全体的な成果としては、ワークシートにもあるように、「近代」という大きな時代のくくりを様々な視点から意見交換することで、多面的・多角的な理解につながったようである。今後の課題は、今回は時期や分野のまとまりを教師のほうで設定したが、生徒が分野をまとめたり、関係を線で結ぶなどして構造図のようなものをつくり、自分で流れを把握できることが望ましい。どのようにしてそれを可能とするかが課題である。

近代日本の特色を考えてみよう

3年　組　番氏名

A1

日本の近代は（　　）時代であった。

	国内の政治に関するもの	外国との関係に関するもの	経済や産業、社会の動きに関するもの	文化や思想、生活に関するもの
江戸 1868	安政の大獄 桜田門外の変 大政奉還 王政復古の大号令	ペリー来航 日米和親条約 日米修好通商条約	草皇攘夷運動 討幕運動	
明治 1912	A 戊辰戦争 五箇条の御誓文 版籍奉還 廃藩置県　身分制度廃止 学制　徴兵令　地租改正 西南戦争 自由民権運動 自由党　立憲改進党 大日本帝国憲法 第1回帝国議会	岩倉使節団 D 征韓論 樺太・千島交換条約 日朝修好条規 日清戦争・下関条約 日英同盟 日露戦争・ポーツマス条約 韓国併合	G 殖産興業 官営工場の設立 北海道の開拓 日本の産業革命 八幡製鉄所の設立 H 労働争議　小作争議	I 文明開化 日本文化の否定 学問のすすめ J 日本文化の再評価 岡倉天心、フェノロサ 森鴎外　夏目漱石　野口英世
大正 1926	B 第一次護憲運動 政党（原敬）内閣の成立 普通選挙法　治安維持法	第一次世界大戦 二十一か条の要求 シベリア出兵 ベルサイユ条約 三・一独立運動　五・四運動 E 国際連盟加盟 ワシントン会議	米騒動 普通選挙運動 社会運動高まる 金融恐慌（1927）	K 大正デモクラシー 民本主義 全国水平社結成 大衆文化　ラジオ放送
昭和	C 五・一五事件（1932） 二・二六事件（1936） 終戦（1945）	F 世界恐慌（1929） 満州事変（1931） 国際連盟脱退（1933） 日中戦争、 日独伊三国同盟（1937） 太平洋戦争開始（1941） 東京大空襲　原爆投下　ポツダム宣言	国家総動員法（1938） 学徒出陣（1943）	言論・思想の統制強化

近代日本の特色を考えてみよう

3年　組　番氏名

○A～Kにタイトルをつけよう

国内の政治	外国との関係	経済や産業、社会の動き	文化や思想、生活
A 近代国家の建設 新しい国づくり	D 日本の侵略 近代的な国際関係　世界との対立	G 産業の近代化 重工業の発達　ジャパンレボリューション	I 文化の欧米化 文明開化をあざして　外国文化の輸入
⇩	⇩	⇩	⇩
B 立憲国家の成立 日本の政党政治の発達 近代国家の形成	E 近代的な国際関係 平和、国際協調の高まり 国際社会からの孤立	H 広がる社会運動 あわてる日本と世界	J 近代文化の形成 明治ハイパークリエイターズ　本の時代
⇩	⇩		⇩
C 軍国主義の登場 政党政治のおわり　日本はじめて	F 泥沼化する戦争 近代戦　戦争と敗戦		K 広がる民主化 文化の大衆化　市民社会の発展

○「近代」を示すキーワードを探そう

戦争，軍国主義，近代文化，法律
憲法，国際，民主化，資本主義社会，つながり

近代日本の特色を考えてみよう

3年　組　番氏名

A2

日本の近代は（　　）時代であった。

	国内の政治に関するもの	外国との関係に関するもの	経済や産業、社会の動きに関するもの	文化や思想、生活に関するもの
江戸	安政の大獄 桜田門外の変 大政奉還 王政復古の大号令	ペリー来航 日米和親条約 日米修好通商条約	尊皇攘夷運動 討幕運動	
1868年	戊辰戦争 五箇条の御誓文（1868） 廃藩置県　身分制度廃止 版籍奉還（1869） 学制、（1872）徴兵令　土地租改正（1873） 自由党結成（1882） 自由民権運動 大日本帝国憲法（1889） 第1回帝国議会	岩倉使節団 征韓論 樺太・千島交換条約（1875） 日朝修好条規（1876） 日清戦争（1894） 日英同盟（1902） 日露戦争（1904） 韓国併合	殖産工業（1872） 官営工場の設立 北海道の開拓 西南戦争（1877） 日本の産業革命 八幡製鉄所（1901） 労働争議　小作争議	文明開化（1868～） 学問のすすめ（1872） 日本文化の再評価 岡倉天心、フェノロサ 森鴎外　夏目漱石　野口英世
1912年	第一次護憲運動 普通選挙法（1925） 治安維持法（1925）	第一次世界大戦 二十一か条の要求（1915） シベリア出兵（1918）政党内閣 ベルサイユ条約（1919） 三・一独立運動　五・四運動（1919） 国際連盟加盟 ワシントン会議	民本主義（1916） 米騒動　大正デモクラシー 社会運動高まる 普通選挙（1925） 治安維持法（1925）	全国水平社結成 ラジオ放送（1925）
大正 1926年 昭和	五・一五事件（1932） 二・二六事件（1936） 終戦	世界恐慌（1925） 満州事変（1931） 国際連盟脱退（1933） 日中戦争、日独伊三国同盟（1937） 太平洋戦争開始（1941） 東京大空襲（1945）/原爆投下（1945） ポツダム宣言（1945）	金融恐慌 国家総動員法（1938） 学徒出陣	言論・思想の統制強化

近代日本の特色を考えてみよう

日本の近代は（　　）時代であった。

- 西洋文化を多く取り入れ、戦争や同盟など国際的な広がりを得た
- 戦争や社会運動をくり返しながら日本文化、国際関係を築き上げた
- 国際的なつながりが増え、戦争が多かった
- 新たな国づくりの
- 国際的なつながりと近代文化が発達した
- 戦争をへて、産業や日本の様々な文化が進展した変化にとんだ
- 文化を見直し国際進出した
- 豊かな国力と世界的な戦争の
- 現代につながる進化した
- 国民の考え、行動、生活が大きく変わった
- 外国とのつながりを深め、新しい国づくりが進んだ
- 外国とのつながりが増え、日本が成長した
- 世界との関わりによって「日本」がつくられた
- 文化が発展し、平和と戦争が交互におとずれる不安定な
- 国内の動きと外国の動きが大きくかかわった
- 外国との交流が始まり、現在のもととなる文化がつくられた
- 政治、経済、外交関係が大きく発展した
- いろんな変化があって今の日本に近づいてきた
- 民主主義から軍国主義への
- 世界関係が複雑な
- 産業、経済、文化が発展していった
- 世界と近づき、つながり、対立した
- 世界との対立と協調をくり返した
- 日本が大きく変化した
- 戦争が多い
- 文化や産業、社会など様々な事において変化の多い
- 資本主義社会が発展した
- 戦争から文化までたくさんの変化がおこった
- 試行錯誤しながらも発展していく
- 世界と日本の関係が変わった
- 戦争がたくさんあり、世界とのかかわりが多かった
- 間違いを繰り返しながら成長していった
- 激しく変化した発展の
- 外国との関わりが激増した

近代の日本と世界の特色について考えよう　年　組　番氏名

B1

日本国内に関すること

・大政奉還→五箇条のご誓文
・様々な改革
1 廃藩置県、版籍奉還
地租改正、徴兵令
学制

改革への不満 → 2 自由民権運動
国民の政治参加を求める
↓
立憲政治の実現 4 大日本帝国憲法
国会開設

士族の反乱 → 3 西南戦争
武力で変革を求める

・第一次護憲運動
・米騒動
↓
日本初の 23 政党内閣 原敬首相
国会で多数を占めた政党の党首が
総理大臣に任命され、内閣を組織。

・第二次護憲運動
24 普通選挙法 参政権の拡大
・治安維持法の成立

・五・一五事件
・二・二六事件
↓
軍部が政治を動かすようになる
・34 国家総動員法 総力戦体制
・日独伊三国同盟
・~~日ソ不可侵条約~~ 日ソ中立条約
・大政翼賛会
・敗戦

外国との関係に関すること

・欧米との関係 5 岩倉使節団
・近隣諸国との関係
朝鮮王国 6 日朝修好条規
江華島事件、征韓論
ロシア 7 樺太千島交換条約
琉球王国 8 沖縄県に
→日本領土に組み込み
・対外戦争
9 日清 戦争→下関条約
10 日露 戦争→ポーツマス条約
↓
・植民地獲得
11 台湾 12 朝鮮半島 など
・第一次世界大戦→ベルサイユ条約
・二十一か条の要求、シベリア出兵
・中国、朝鮮の日本への反発
13 三・一独立運動 14 五・四運動

・戦争を防ぐ努力
25 国際連盟 国際協調体制
26 ワシントン会議 海軍軍縮条約
27 不戦条約 侵略戦争の否定
ロンドン海軍軍縮条約

・世界恐慌
・ブロック経済（英仏）ニューディール（米）
・独伊は新たな植民地の獲得へ
・日本も植民地の獲得へ
35 満州事変 中国東北部へ進出
36 日中戦争 中国本土への進出
↓
東南アジアへの進出
37 太平洋戦争 欧米との戦争

経済や産業に関すること

・産業の発達を目指す
官営工場 15 富国強兵
殖産興業
16 富岡製糸場 の設立
17 北海道 の開拓（開拓使）
銀行の設立、鉄道建設、郵便制度、
貨幣制度

・日本の産業革命
軽工業の発達（せんい製品の輸出増大）
18 八幡製鉄所 の設立
→重工業

・大戦景気→成金
財閥の形成
国民生活の向上

・労働争議の増加
・小作争議の増加（小作料の引き下げ要求）
・社会主義運動の活発化
↓
28 治安維持法 社会主義者の弾圧
大逆事件

・大戦後の不景気
関東大震災後の不景気→金融恐慌
（深刻な不景気）
・世界恐慌の影響
・冷害→農作物の不作
・農作物の価格下落
↓
農村の疲弊

・国民生活の統制
生活用品の切符制、配給制
・文化や思想の統制
自由主義的な思想や学問に対する弾圧

文化や思想に関すること

・欧米の文化を取り入れる 19 文明開化
・日本文化の否定→廃仏毀釈
・日本文化の再評価
20 岡倉天心 21 フェノロサ
・福沢諸吉 22 学問のすすめ
黒田清輝　滝廉太郎
樋口一葉　夏目漱石　森鴎外
野口英世　北里柴三郎　志賀潔

・大正デモクラシー
29 天皇機関説 美濃部達吉
30 民本主義 吉野作造
31 青鞜社 女性解放運動
32 全国水平社 部落解放運動
・大衆文化
西洋料理、童謡、童話（「赤い鳥」）
映画、ラジオ、歌謡曲、スポーツ
・教育の普及
小学校就学率の向上、大学の増設、
女子教育、
33 プロレタリア文学
労働者や農民の生活を描く

・自由が奪われた。←戦争のため

特色を考えよう

何のための改革？
→植民地にならないように西洋のような強い国をつくるため。
領土確定と拡大をめぐり近隣諸国と戦争
官営工場の設立によって産業が発達していった。
欧風の文化を取り入れ、発達しつつも、日本文化の再評価もされた。

二度と総力戦となる戦争が起こらないような様々な条約の締結、話し合いがあった。
より国民の意見が取り入れられる政治体制になった。
好景気になったが、労働者の生活はよくならなかったため、労働争議や社会主義運動が活発になった。
民主主義を求めるなどの政治的運動がさかんに。

世界恐慌からの景気回復のため、植民地の獲得に乗り出した国が出てきたため、再び世界大戦に突入した。
世界恐慌と同時期に発生した天災で、経済は立ち直れないほど危機的状況になる。
軍部が政権を握ったことで一気に戦争へ近づいた。

近代の日本と世界の特色を考えよう　　年　組　　番氏名

1，他の人の考えを参考にしよう。

B2

第一期	・ヨーロッパの考えをとりいれ、産業が発達した。 ・植民地ないをめぐり、対立することが多かった。 ・たくさんの知識がふえて、発展のもとになった。 ・ヨーロッパの文化をとりいれた。
第二期	・さまざまな、差別をなくしていこうとする運動がはじまった。 ・好景気になったが、実際にとても豊かになったのはごく一部だった。 ・教育をとりいれ、近代的になった。
第三期	・景気が悪くなった。(世界的なもの) ・植民地の獲得のために戦争が。(はげしくなった) ・国民の生活は政府によって制限された。

2，近代の日本と世界の特色をまとめよう。

結論

「近代は、ヨーロッパに負けないような国を目ざし、発展していったが、問題(国民の自由の制限、戦争)もおきた時代」

・日本は強くならないと、植民地にされてしまうおそれがあった。だから、徴兵令を出し兵力をつけ、産業が発展したことで経済力もついた。対外戦争で勝利したりと、植民地にされるどころか、周りの国を植民地にできるような、強い国となっていった。

・普通選挙法ができて国民が政治に参加できるようになったり、全国水平社、青鞜社の設立など、「平等」への動きもでてきた。平和への努力もなされた。

・しかし、世界的な不況から平和への努力、平等に向けての動きは止まってしまう。思想も制限され、自由でいなくなってしまった。

時代を大観し表現する授業 「近代日本の特色を考えてみよう」

3年　組　番氏名

最終意見　日本の近代は（世界に受け入れられ軍事力も必要とされたが戦争中心の考えになってしまい破滅した）時代であった。

時代	各時代の特色は‥	国内の政治に関するもの	外国との関係に関するもの	経済や産業に関するもの	文化や思想に関するもの
		A 活発な政治や憲法	B 帝国主義でいざ列強へ	C 日本の工業大成長	D 文明開化への道
（幕末） 明治	これからの日本へ向けて政治や工業や学問が発達した時代。	安政の大獄 （1 大政奉還　）、戊辰戦争	（2 ペリー来航　）、日米和親条約 （3 日米修好通商条約　） （不平等条約）	（4 百姓一揆、打ちこわし　） 尊王攘夷運動 ええじゃないか、倒幕運動	佐賀藩反射炉 （5 慶應義塾設立　） 横浜に初の写真館
		五箇条のご誓文 版籍奉還、廃藩置県 四民平等、解放令、学制 徴兵令、地租改正 岩倉使節団 西南戦争 自由民権運動 （6大日本帝国憲法） 帝国議会、教育勅語	不平等条約が続く （7 征韓論　） 江華島事件 樺太千島交換条約	殖産興業、官営工場 北海道開拓	廃仏毀釈（日本文化の否定） （10 学問のすすめ　） 太陽暦採用 キリスト教公認 銀座レンガ街ができる 札幌農学校開校 東京大学設立 北里柴三郎破傷風血清療法
		日清戦争 （8 日露戦争　） 韓国併合 条約改正		日本の産業革命 工場制機械工業 （9 八幡製鉄所　） 労働運動、社会主義運動 大逆事件	豊田佐吉自動織機発明 田中正造の天皇へ直訴
		E 大正デモクラシー	F 日本の世界進出	G 民衆の反抗	H 西洋化、そして平等へ
大正	力を付けて強くなってきた日本。 必要とされる日本の軍事力。	第一次護憲運動 （11 民衆が議会包囲　） 米騒動 政党内閣（原敬） 関東大震災 普通選挙法・治安維持法	（12 第一次世界大戦　） 二十一箇条要求 シベリア出兵 ベルサイユ条約 三・一独立運動 五・四運動 （13 国際連盟に加盟　） ワシントン会議 軍縮条約	普通選挙運動 労働運動 小作争議 社会主義運動 日本共産党結成	バス、タクシーの普及。 都心郊外間の通勤電車 デパート、レストラン コロッケ、（14 カレーライス　） タイピスト、バスの車掌 （15 電話交換手など女性の進出） 義務教育ほぼ100% 雑誌、新聞の発行部数増加 ラジオ放送開始
		I 軍国主義高まる。	J 外国と日本の戦争	K 戦争体制	L 高まる戦争意識
昭和	世界に追いつこうとしてやぶれた時代 戦争中心で破滅した時代	五・一五事件 （16 二・二六事件　） 国家総動員法 敗戦	（17 世界恐慌　） 満州事変 日中戦争 日独伊三国軍事同盟 日ソ不可侵条約 （18 太平洋戦争　） 敗戦	銀行・会社の倒産が相次ぐ 治安維持法死刑追加 国家総動員法 （19 米の配給制　） すべての労働組合解散 学徒出陣 東京大空襲、原爆投下	小林多喜二「蟹工船」 （20 東京オリンピック大会中止　） のらくろ（戦争漫画）、軍歌 「少年倶楽部」「少女倶楽部」 「主婦の友」（以上戦争賛美雑誌）

●近代の特色を考えてみる

第一案（グループ案）
日本の近代は
世界に受け入れてもらうことができた
時代であった。

この後の発表で、友達の意見の重要だと思うものをメモしよう。

外国文化をとりいれたり
戦争とかして世界を
主れたけど結局もどった、（坂本）
世界の戦いがタタかったが、
「日本」という国が受け入れられた（中村）

自己評価	A・B・Cで記入
・近代の大観についての学習に関心を持って取り組んだ。	A
・各時代の特色や近代の大観についてしっかりと意見を言うことが出来た。	A

・自由意見
時代ごとにまとめてみることで
時代にあった物事が
わかりやすくなった。
タイトルを付けるのは難しかったけど、
他の人の意見を聞くことで
イメージが広がって良かった。

●作業
次の歴史事象を、時代の流れを考えて表の（　）に入れてみよう。

電話交換手など女性の進出、慶應義塾設立、大平洋戦争、カレーライス、米の配給制、百姓一揆・打ちこわし、第一次世界大戦、学問のすすめ、大政奉還、大日本帝国憲法、東京オリンピック大会中止、民衆が議会包囲（内閣辞職）、八幡製鉄所、ペリー来航、世界恐慌、日露戦争、征韓論、日米修好通商条約、二・二六事件、国際連盟に加盟

時代を大観し表現する授業 「近代日本の特色を考えてみよう」

3年　組　番氏名

時代	各時代の特色は・・	国内の政治に関するもの	外国との関係に関するもの	経済や産業に関するもの	文化や思想に関するもの
江戸	外国の思うがままにされていた時代 ・日本が変わりはじめようとした時代 ・ペリー来航、坂本龍馬、・今の国の形に近づいた時代 ・国民が力をつけた時代・外国にだまされた時代・世界の影響を受け国際的になった時代	安政の大獄 (1 大政奉還)、戊辰戦争	(2ペリー来航)、日米和親条約 (3日米修好通商条約) (不平等条約)	(4百姓一揆、打ちこわし 尊王攘夷運動 ええじゃないか、倒幕運動	佐賀藩反射炉 (5慶應義塾設立) 横浜に初の写真館
明治	国内に花が咲き、外国に対抗できるようになった時代 ・世界に認められた時代 ・全てを新しくして ・国が自己中心的に動いた時代 ・人間が人間らしさを取り戻した	五箇条のご誓文 版籍奉還、廃藩置県 四民平等、解放令、学制 徴兵令、地租改正 岩倉使節団 西南戦争 自由民権運動 (6大日本帝国憲) 帝国議会、教育勅語	不平等条約が続く (7征韓論) 江華島事件 P.121 樺太千島交換条約 日清戦争 (8日露戦争) 韓国併合 条約改正	殖産興業、官営工場 北海道開拓 日本の産業革命 工場制機械工業 (9八幡製鉄所) 労働運動、社会主義運動 大逆事件	廃仏毀釈(日本文化の否定) (10学問のすすめ) 太陽暦採用 キリスト教公認 銀座レンガ街ができる 札幌農学校開校 東京大学設立 北里柴三郎破傷風血清療法 豊田佐吉自動織機発明 田中正造の天皇へ直訴
大正	・民衆天国!! ・民衆が政治に進出した時代 ・国民が世、積極的に動いた時代 ・民衆が国に反発した時代	第一次護憲運動 (11米騒動) 政党内閣(原敬) 関東大震災 普通選挙法・治安維持法	(12第一次世界大戦) 二十一箇条要求 シベリア出兵 ベルサイユ条約 三・一独立運動 五・四運動 国際連盟に加盟 ワシントン会議 軍縮条約	(13民衆が議会包囲) 米騒動 普通選挙運動 労働運動 小作争議 社会主義運動 日本共産党結成	バス、タクシーの普及。 都心郊外間の通勤電車 デパート、レストラン コロッケ、(14カレーライス) タイピスト、バスの車掌 (15電話交換手など女性の進出) 義務教育ほぼ100% 雑誌、新聞の発行部数増加 ラジオ放送開始
昭和	波に乗ってたが、さらに大きな波に飲み込まれた時代 ・日本が転した時代 ・国が一致団結した時代 ・平和になった	五・一五事件 (16二・二六事件) 国家総動員法 敗戦	(17世界恐慌) 満州事変 日中戦争 「独伊」三国軍事同盟 日ソ不可侵条約 (18太平洋戦争) 敗戦	銀行・会社の倒産が相次ぐ 治安維持法死刑追加 国家総動員法 (19米の配給制) すべての労働組合解散 学徒出陣 東京大空襲、原爆投下	小林多喜二「蟹工船」 (20東京オリンピック大会中止) のらくろ(戦争漫画)、軍歌 「少年倶楽部」「少女倶楽部」 「主婦の友」(以上戦争賛美雑誌)

●近代の特色を考えてみる

第一案(グループ案)各自
日本の近代は 世界的な国になろうとしたが、失敗したりして、日本が成長していった 時代だった。

この後の発表で、友達の意見の重要だと思うものをメモしよう。
・国際社会に進出し、世界的に認められたが、転んでしまった時代　・外国にだまされた
・国際的に発展したが不安定な時代　・外国に日本の急成長を見せつけた時代　・世界に追いつき、追いこそうとして失敗した時代

最終意見(各自の意見)グループ
日本の近代は 外国の影響をたくさん受けて、今の日本の土台をつくりあげた 時代だった。

自己評価	A・B・Cで記入
・近代の大観について関心を持って取り組んだ。	A
・近代の大観についてしっかりと意見交換をすることが出来た。	A

・自由意見
ひとつひとつの時代の内容が深く、短くまとめるのは難しかったけれど、班で意見を出し合うととても良い言葉が出てきてうまくまとめられました。また、他の班の言葉を聞くと、違う考え方をしていたり、参考になりました。近代は色々な事があったけれど、今回まとめてみて、内容がもっと分かるようになり、楽しかったです。

（2）大項目「（２）古代までの日本」

①授業をするにあたって

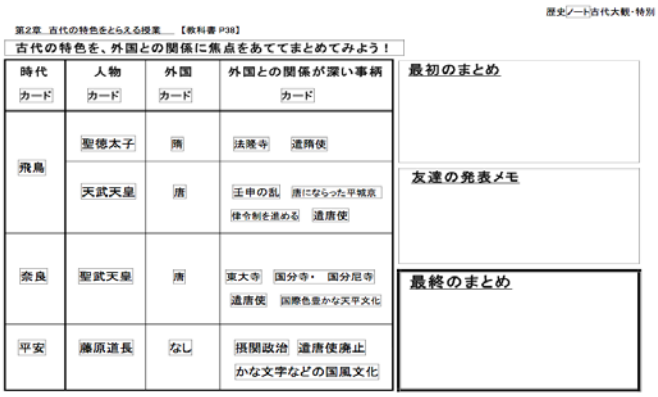
「古代までの日本」の単元は、大観を含めて１７時間を配当している。今回は、研究主題「自分づくり・社会づくり」との関わりが深い飛鳥時代以降を大観する。生徒の発達段階を考慮し、第１学年歴史的分野の最初の大観となるため、わかりやすく「カード」にまとめることにした。「時代を大観する学習」の導入として、国家の形成を東アジアとの関係を軸に据えながら、授業を展開し、「時代」「人物」「外国」「外国との関係」ごとに分類しカードにまとめた。

最後に学習指導要領にある「東アジアと深いかかわりをもちながら農耕の広まりによる生活の変化、国家の形成と発展、天皇・貴族による政治の展開、文化の展開などの動きがみられた」ことを理解し、自分の言葉で表現することが目標である。

②本時の流れ

図のカードは「時代を大観する学習」の導入の授業での２４枚である。古代を１時間で大観するために、カードを「外国との関係が深い事柄」に絞って配列した。カードの中には、「唐にならった平城京」や 「国際色豊かな天平文化」などの他に、「かな文字などの国風文化」また「なし」など、外国との影響を受けずに生じた内容も入っている。

授業では、まず時代・人物・外国カードをならべ、次に外国との関係が深い事柄を黒板にはり出した。１年生の段階では、自らまとめる学習は難しいと考え、授業者が主導し古代を大観してゆく方法をとった。例えば「国際色豊かな天平文化」では正倉院の琵琶がシルクロードの影響を受けていることに加え、外国との関係を強調した。



カードが配列されたワークシート

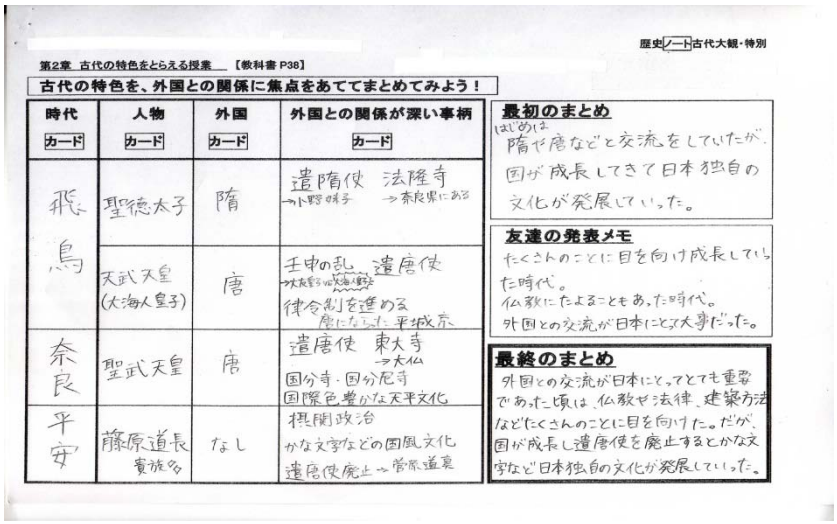
カードが配列された黒板

次に「最初のまとめ」を行った。「古代がどのような時代であったのか、外国との関係に注意しながら書きなさい」という指示をして、外国との関係からどのようなことが読み取れるかを書かせた。そこには「寺がたくさん」など、ストレートな解答が多く見られた。そして、自分の言葉を生徒同士で伝え合い、自分にない意見を「友達の発表メモ」覧のワークシートに記入させた。最後に「最初のまとめ」から「友達の発表メモ」で自分の意見を相手に伝える作業を経て、「古代がどんな時代」であったか、自分の言葉でまとめさせた。

③指導計画

	学習活動	指導と留意点	評価
導入	○古代を３つの時代、５人の人物、４つの外国カードを、それぞれ年代順にならべる。 ○代表者がカードを黒板に張りつける。	・古代の出来事を「時代・人物・外国」ごとに分類し、おのおのの関連性を考え、古代を振り返えさせる。 ・「時代・人物・外国」カードが時代順に配列されているかを確認させる。 それぞれの関連性やかかわりを教師が解説することで古代を振り返えさせる。	知歴史事象を関連さながら、古代の出来事をカードで配列し、ワークシートにまとめる。
展開	○「外国との関係が深いカード」を時代順に配列する。 ○カードが正しく配列されているかを確認する。 ○古代がどんな時代であったか自分の言葉でまとめる。 ○自分が書いた言葉を友達に伝えお互いの言葉を交換する。	・「外国との関係が深いカード」を並べる場所が分かった人から、カードを積極的に配列させる。 ・外国との関係に注意しながら、「古代までの時代」を自分の言葉で表現させる。 ・古代を自分の言葉でまとめた後に、自分の言葉を友達に伝え、自分にない意見があった場合は、ワークシートに書かせる。	思古代とのつながりを外国との関係をふまえながら考える。
まとめ	○友達の意見をふまえ、古代の特色を考える。 ○古代の特色をクラスで発表する。	・自分の意見と友達の意見をあわせて考えを深めさせる。 ・自分の考えをクラスで発表して共有させる。	思古代の特色を自分の言葉で表現する。

④成果と課題



「最後のまとめ」は自分の言葉で相手に説明できるように書かせた。「外国の良いところを取り入れて、国際色豊かだったが、遣唐使を廃止してから、外国とのかかわりがなくなり、日本独特の文化になった」など、理解させたい部分をしっかりとらえることができていた。また、古代の特色を自分の言葉で表現することについては「外国の良いところを受け入れる」「天皇中心の政治」「遣唐使を廃止し、日本独自の文化が生まれた」など、とらえていた生徒は３１人中２９名であった。以上から、古代を自分の言葉で表現できていたといえる。また、上のワークシートでは、最初のまとめで「日本独自の文化が発展していった」とあり、要点をつかんではいるが国内の様子が具体的に捉えられていなかった。しかし、友達の発表メモを通して「仏教にたよることもあった」ことに触れ、「外国との交流が日本にとって大切であった」と深めている。最後のまとめでは、「仏教や法律、建築方法などたくさんのことに目を向けた」とあり、遣唐使などから、具体的にかな文字をあげて国風文化が説明できていた。

（3）大項目「（３）中世の日本」

①指導計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価
1	○中世とはどんな時代かを考える。 ・時代を大観する年表を整理する。 ・自分が注目する事柄を挙げ、中世とはどんな時代かをまとめる。 ・予想される主な注目点 「武士が支配した時代」 「民衆が力をもった時代」 「団結の時代」「戦乱の時代」 ○自分たちがとらえた特色をまとめ、発表するための準備をする。 ・同じことがらに注目した４人程度のグループを作る。 ・グループごとに考えをまとめる。 ・発表の準備をする。（発表原稿、発表資料の作成）	・年表はそれまでの授業の中で適宜作成していく。 ・自分が注目した点について、理由を明確にさせる。 ・同じテーマのグループが複数あってもよい。 ・グループごとに自分たちが注目した特色をまとめて発表原稿にするとともに、その注目点をキャッチフレーズにして画用紙にまとめる。（キーワード的な語句を挙げてもよい。）	思既習の知識を活用して考え、自分の言葉でしっかりとまとめ、発表している。 関グループでのまとめや発表に協力しながら取り組んでいる。
2 本時	○特色を発表する。 ・グループごとに発表する。 ・発表は3回。交代で発表する。 ・発表者とならないときは、自分の視点と異なる内容の発表を優先的に聞く。 ○感想をまとめ、発表する。 ○中世の特色をまとめる。	・発表時にはその場で自由に意見交換させる。 ・友達の着眼点に注目させる。 ・特に自分にない着眼点の発表を聞いた感想を中心にまとめさせる。 ・最終案をまとめさせる。 ・最初に考えた特色や理由と異なってもかまわない。 ・数人の生徒を指名して発表させる。	関わかりやすく発表している。他の発表をきちんと聞いている。 思考えをまとめ適切な言葉で表現している。 知中世の特色を根拠をもってつかんでいる。

②成果と課題

ア　成果

まず時代全体を俯瞰できるような年表を作成して中世の学習を整理した。また政治の主人公、できごと、文化・宗教、民衆、外国との関係など参考にすべき視点を明確にさせた。また時代の特色を考えるときにどのような視点から時代を見るかを明確にさせたうえで自分の考えをまとめるようにさせた（政治）。さらに同じ考えのグループで意見交換をし、資料や既習の学習内容に基づいて

根拠を明確化させた。そしていわゆる屋台村方式で発表を行った。このとき生徒には自分の考えと異なる内容の発表を優先して聞くようにさせた。その結果、生徒は既習の知識を活用し、根拠にもとづいて理由を明確化させ、他者の意見をふまえて多面的・多角的に考えて自分の考えを再構築し、最終的な結論をまとめることができた。

生徒のワークシートより（「『日本の中世』について、あなたの最終的な考えをまとめなさい。」）

日本の中世は「民衆と武士が主役」の時代だった。
その理由は 〇武士からの支持を失うと政治はやっていくことができなくて、でも支持してもらえれば政治をやっていたことなど、武士がたくさんかかわっていた。 〇物語の主人公も民衆や武士で、民衆の文化がたくさん増えていったこと。 〇戦いが多く、天皇や貴族の力が衰え、武士や民衆が力をつけたこと。

日本の中世は「武士が中心となった」時代だった。
その理由は 第一に、武士の支持をたくさん得られた人が強い権力を握るようになったから。 第二に、禅宗や御成敗式目など、武士のため（好み）の文化やしくみができたから。 第三に、位よりも実力（武力）が有力だったから。（下剋上） 第四に、鎌倉幕府や建武の新政は、武士の支持を得られなかったため、滅亡してしまったから。

日本の中世は「外国からも文化を取り入れたが、やはり武士を中心とした領地が命」の時代だった。
その理由は 第一に、中国から伝わってきた文化を参考にした時代だったが、それも「武士ごのみ」のものだったから。 第二に、御恩と奉公の関係や領地の相続などで、領地を守ることにすべてを賭けたからです。

イ　課題

今回の学習では、古代の特色と中世の特色をどのように関係づけるかといった学習ができていなかった。つまり我が国の歴史全体の流れの中に、中世がどのように位置づけられるかといった視点に欠けた指導となってしまい、生徒の歴史認識は切れ切れの状態にとどまってしまった。また、時代の特色をとらえる学習では、根拠に基づくとともに様々な視点を考慮に入れて判断することが必要であるが、どのような認識を可とするかを事前に明確にして指導することができなかった。

さらには、生徒の話し合いが不完全だったことも課題である。今回は屋台村方式による発表という形を取り、生徒にはその場で質問を出したりするよう指導したが、その場での質疑応答や話し合いには発展しなかった。その他、生徒の認識の変化を検証することができなかったこともあげられる。各時代について事前の調査をし、最後の認識と比較できるようにするべきであった。

（4）大項目「（４）近世の日本」

①授業をするにあたって

「近世の日本」の単元について学習指導要領では「織田信長、豊臣秀吉による統一事業及び江戸幕府による諸政策を通して生まれた安定した社会が、その後長く続いた。」とある。そこで単元の動機づけとして、戦乱の時代に生きた人々は「今後どのような社会になることをのぞんだのか。」を考えさせた。この視点は、江戸幕府により再び平和と秩序が回復したことの意義やその上で産業や文化が著しく発達し、町人文化や各地方の生活文化が形成されていったという近世の歴史の流れをとらえさせる点で必要であると考えた。

また、授業を進めて行くにあたっては、「近世とはどのような時代だったのか。」を具体的に自分の言葉で表現させるように試みた。そこで「疑問形」の学習課題を設定した授業を毎時間重ねていくことにした。

特に本事例では、「時代の特色をとらえる学習」を見越して、近世まとめプリント（近世の時代の流れを理解しよう）に毎時間の学習課題に対する答えを記入させていくことにした。その際、生徒が答えやすいような文言にした。

②本時の流れ

本時は２時間に分けて行う。第１時では、生徒自身が１時間ごとの授業の課題の答えを書き込んでまとめたプリントからどのような身分の人が時代を動かしていたのかを考えさせる。「近世は武士がささえた。（活躍した）」と思われるものに赤のシールを、「農民や町人がささえた。（活躍した）」と思われるものに青のシールを貼らせながら、近世の「政治」、「文化・経済」、「外国とのかかわり」の特色をつかませていく。

第２時では、前時の１時間ごとの授業の課題の答えを書き込んでまとめたプリントを利用し、「近世は武士がささえたのか、あるいは農民・町人がささえたのか。」というテーマから「近世とはどのような時代だったのか。」を考えさせる手立てとして意見交換をさせていく。例えば、武士の活躍を支持する側の「農民や町人は政治に参加していないではないか。」という意見に対して農民・町人の活躍を指示する側が反論を考えたり、逆に農民・町人の活躍を支持する側が「武士は経済に関わっていないように思える。」という指摘に対して、武士の活躍を支持する側が武士の経済に対する貢献を示す具体的な事例をあげたりして議論するなかで近世という時代の歴史的な事象を生徒に多面的・多角的にとらえさせていく。

授業の終末では、生徒一人ひとりが自分の支持するグループの立場を一度離れて再度、「近世とは武士がささえたのか、あるいは農民・町人がささえたのか。」についての自分の最終意見を考え、発表する。

③指導計画

	学習活動	指導上の留意点	評価
第1時	○近世のまとめプリントの①政治、②文化・経済、③外交の３つのテーマ別に近世について自分の考えを記入する。	・近世まとめプリントの毎時間の課題の答えは、授業の終末にまとめさせておく。	思資プリントの毎時間の課題の答えをもとにテーマ別の特色を自分の言葉で表現している。
	○３つのテーマ別に、数名の生徒が発表する。	・自分の考えだけでなく友人の発表も聞いて参考にさせる。	
	○近世まとめプリントの毎時間の課題の箇所に武士がささえた事象と考えたなら赤のシールを、農民・町人がささえた事象と考えたのなら青のシールを貼る。近世は「武士がささえた時代」か、あるいは「町人・農民がささえた時代」かを考える。	・「武士」、「農民・町人」双方がささえた事象と考えられるものには、両方のシールを貼らせる。	関思資自分の考えをもとに意欲的にシールを貼っている。
	○近世まとめプリントをもとに「近世を武士か、農民・町人どちらがささえたのか」自分の意見をまとめる。	・近世まとめプリントに貼られた色別のシールの数と共にテーマ別のまとめも参考にして、最後は自分の判断で意見をまとめさせる。	関思資３つのテーマ別の自分の考えをもとに意欲的にシールを貼っている。どちらがささえたのか、根拠を持って自分の言葉で表現している。
第2時	○近世は、「武士がささえた時代」か、「農民・町人がささえた時代」か、二つの意見をまぜて小グループをつくり、意見交換をする。	・「何故、そう考えたのか」理由を明確にしているかを観察する。友だちの意見で大切なことはメモさせる。	関思自分の意見もはっきり言えて、相手の意見も聞こうとしている。
	○「武士がささえた時代」「農民・町人がささえた時代」に分け、全体で討論する。	・司会は、教師がおこなう。	思資根拠を明確に自分たちの考えを述べている。
	○全体での意見交換後、最終意見を書き、発表する。	・自分のグループの立場を一度離れて再度、結論を出させる。	思資近世の特色を自分の言葉で考え、結論としてまとめている。

④成果と課題

第１時では近世まとめプリントをまとめて自分自身の考えを整理していく中で、「政治では武士が、文化、経済では農民・町人が近世をささえた。」という傾向がみられた。第２時では、第１時の近世まとめプリントをもとに意見交換をおこなったが、生徒がより深く歴史的な事象をとらえられるようになった反面、政治・経済に偏り、「外国とのかかわり」についての意見交換があまりできなかった。た。やはり、生徒に多面的・多角的な見方や考え方を育てるためには、時代を幅広くとらえさせる必要がある。今後の課題としたい。

（5）大項目「（６）現代の日本と世界」

①単元構成に当たり考えたこと

まず単元の動機づけとして「敗戦から立ち直り、今の日本になったことについて最も大きなできごとは何か」を予測させるとともに、学習のまとめとして「現代の日本と世界」というリーフレットを作成することを示した。そのうえで時代の特色が捉えられるよう１１時間の授業を通して教科書・資料集などから時代を象徴するような資料を意識的に提示していくようにした。どの単元でも時代の特色を自分なりに表現できるためにはそこに至る授業構成が大きなポイントを占める。

変革期の授業では「戦後の諸改革は日本をどう変えたのか」のテーマで３時間構成とし７つの項目について「ヘルメットをやかんに改造する工場」「墨塗り教科書」等象徴的な資料を示して①改革内容、②改革による社会の変化を考えさせ、③それらが現代日本でどうなっているかを考えさせることで改革の今日的な意味や現代社会を意識させるようにした。また「冷戦、植民地の独立とアジア」では両陣営やあたらしい独立国を地図中に着色する作業なども取り入れ冷戦の意味や独立国の果たした役割を考えさせ「冷戦は日本と世界にどんな影響を与えたか」というテーマの２００～３００字のミニレポートを作成した。「高度経済成長」についても「高度成長は日本をどう変えたか」のミニレポート、「国際社会とのかかわり」では年表を作成する作業を通じて理解を促した。ミニレポートは事実の羅列ではなく、全体を見てその事象について自分の言葉で表現することを求めるものである。拙い表現であっても全体を捉えて自分なりに把握している者に高い評価を与え、自発的な学習意欲を引き出せると考えた。リーフレットという表現方法は多くの人に読んでもらうことを前提としている。捉えた内容をメッセージとして発信することはより明確に自分の意見をもつことにつながるとともに互いのメッセージを読み合い学びあうことにつながる。

最後に「現代の日本と世界」は生徒たちが生活している現代社会と直接かかわる社会事象を学習する単元であり、歴史学習を終えるにあたり、この時代の特色を捉えるだけでなくこれからの時代を意識して公民的分野の学習に向けた課題意識を持たせることが求められる。リーフレットの最後に「これから自分はどのように社会とかかわっていこうと思うか」の項目を入れまとめとさせた。

②目標

ア　「第二次世界大戦後の混乱から民主的な文化国家を目指して再建と独立の道を歩み、冷戦など世界の動きとの関わりの中で、経済や科学技術の急速な発展を成し遂げた」という、現代の日本と世界の特色を理解している。

イ　時代の特色を表す資料を根拠を示して適切に選択するとともに、時代の特色を自分の言葉でキャッチコピーや文章で表現できる。

③指導計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価
1	○各項目の代表的な事柄、象徴する資料を、その理由とともに選定しワークシートＡに記入する。	・“現代”の時代設定（1945 から 2000 年）や、リーフレットのイメージ・目標を各自が持つようにする。	関思知時代を代表する事柄を根拠を持って判断し

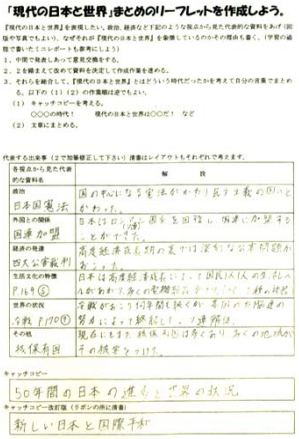
	（項目） 国内政治、外国との関係 経済の発達・生活文化の特徴、世界の状況、その他	・なぜ“時代を代表する”と考えたかを解説の中に書きこませるようにする。 ・選定できなかった生徒も他の発表を聞いて選定したり修正できるようにさせる。	適切な資料を選択している。
2	○前時の内容から、この時代を象徴するキャッチコピーと文章を考える。 ○「現代の５０年間はどんな時代だったか」 ワークシートＡ	・途中で時間を取り、いくつかのキャッチコピーや文を発表させて他の生徒の参考にさせる。	思資 選んだ資料をもとに時代の特色を自分の言葉で表現している。
3	○第１時の内容をレイアウトし記入するとともに第２時の内容も書き込んでリーフレットを作成する。	・写真資料については生徒が使用している資料集のコピーを印刷して配布する。（出版社の許可を得る） ・リーフレットには「これから自分はどのように社会とかかわっていこうと思うか」の欄を設ける。	資 “特色”が明らかになるように表現されている。

④結果と考察

第１時の、項目ごとに時代を代表する事柄や資料を上げていく場面では「つまり～」「～だから」といった生徒間のやり取りが活発に行われ、単なる復習でなく自らの意思で事柄やその特色をとらえなおそうとする姿が多くみられた。キャッチコピーには「急速な変化」「成長」「発展」等の言葉が多くみられた。日本が平和な民主国家となり高度な経済発展を遂げたこと、冷戦という背景もある一方で冷戦の終結や世界平和へ向けて大きな努力が重ねられたことを多くの生徒が実感として理解していると思われた。今後の取り組みについても「大きなことはできないけれどきちんとした価値観や知識を持って国際社会に関わることはできると思った。」というような意見多く載せられた。

課題としては、多面的に捉えられるよう６つの項目に沿って事柄や資料を選択させたが、羅列になってしまい、自分が考えた大きな時代の特色に従って軽重を付けることができない生徒が見られた。目標を明確に提示し、「自分の考えの構築」に取り組めるようにしたい。

ワークシートと作業例



リーフレット作品例